

TX Alliance Imaging Symposium 2013

生体内の分子の動態やそれらの相互作用をきたまま解析するイメージング技術の重要性は言うまでもない。イメージングは生物学、医学、化学、物理、薬学、工学、機械工学など幅広い分野の融合により産み出され、基礎科学から医療・産業への大きな波及効果が期待される。現在、様々な組織、機関において、「イメージング」に関する研究プロジェクトが立ち上がっているのがその証拠であろう。一方、2005（平成17）年に開業した「つくばエクスプレス（TX）」沿線には、様々な有力大学、研究所、研究センター、企業が集中している。そこで、TX沿線に勤務する研究者、教員、学生、医師などの間で情報および意見交換を行う勉強会を企画した。このエリアで活躍する異分野研究者が集まることによって、最先端の生命科学・生物医学研究におけるブレークスルーを模索することを目的として、本シンポジウムを開催する。

日時： 2013年3月19日（火）13:00～

場所： 筑波大学・イノベーション棟8階講堂

交通：つくばエクスプレス「つくば」駅から筑波大学循環バス（右回り）で約15分

「追越（おいこし）学生宿舎前」バス停下車、駐車場ゲートの横を進み10m先の左側の8階建ての建物

プログラム案（講演者敬称略）

13:00-13:10 開会

13:10-13:50 渡邊 歴（産業総合研究所・電子光技術研究部門・主任研究員）
「生体組織、細胞の深部イメージングと操作を目指して：光学の立場から」
（座長：三輪佳宏（筑波大学医学部））

13:50-14:30 朽津 和幸（東京理科大学理工学部応用生物学科・教授）
「植物のシグナルネットワークを視る」
（座長：松永幸大（東京理科大学理工学部））

14:30-14:50 休憩

14:50-15:30 ウチダヒロコ（イラストレーター）
「みせたいモノをみせる～科学を描く面白さ～」
（座長：青木伸（東京理科大学薬学部））

15:30-16:10 加藤 薫（産業技術総合研究所・バイオメディカル研究部門・主任研究員、
筑波大学・生命環境科学研究科・准教授（連携大学院））
「光でナノをみる—偏光、位相差から超解像光学顕微鏡まで—」
（座長：中村岳史（東京理科大学生命医科学研究所））

16:10-16:50 江藤 剛治（立命館大学・総合科学技術研究機構・教授）
「超高速・超高感度カメラを用いた生物顕微鏡」
（座長：須田亮（東京理科大学理工学部））

17:20～ 懇親会 筑波大学医学部・医学食堂（会費：一般3500円、学生500円）

主催：東京理科大学イメージングフロンティア研究部門

共催：サイエンスヴィジュアルイゼーション研究会

筑波大学生命領域研究センター（TARA）三輪プロジェクト

後援：新学術領域「生体イメージ」

連絡先：三輪佳宏（筑波大学医学部・ymiwa@md.tsukuba.ac.jp）

青木伸（東京理科大学薬学部・shinaoki@rs.noda.tus.ac.jp）